



はく手をすると、手が赤くなり、かゆくなるのはなぜ

はく手をすると、手が赤くなるのは

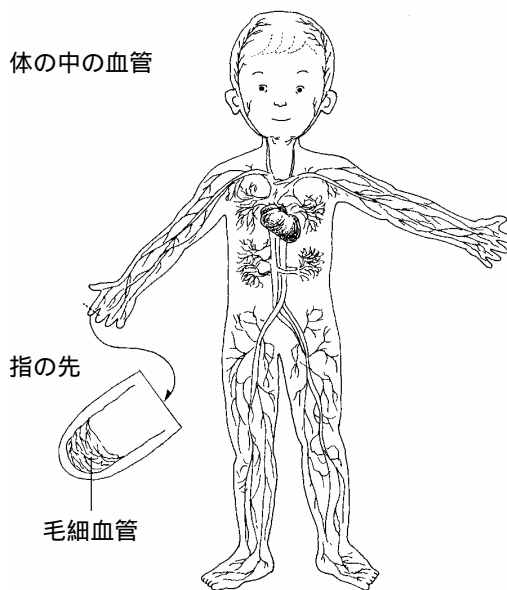
はく手をすると、手が赤くなるのは、体のすみずみまで、どんなところにも、皮ふの下には血管があるからです。

はく手をすると、手のひらの皮ふの下の血管に、たくさんの血液が流れこむことになり、そのため、手が赤くなるのです。

手のひらだけでなく、体のどの部分も、たとく赤くなるのはそのためです。

ぎゃくに、手のひらや、そのほかの体の部分をおすと、白くなります。これは、おすことによって、皮ふの下の血管を流れている血液を、止めることになるからです。

体の中の血管



はく手をすると、手がかゆくなるのは

皮ふには、いろいろなものを感じるしくみがあります。

痛さを感じる痛覚、さわったことを感じる触覚、暖かさを感じる温覚や、冷たさを感じる冷覚、おされたことを感じる圧覚などで、それぞれを感じる場所（点）は別々です。

そして、これらの点は、数の多さは別として、かたよることなく混じり合って、全身の皮ふにちらばっているのです。

しかし、かゆみを感じる場所（点）は、ないといわれており、はく手をすると、手がかゆくなるのは、はく手をして、手のひらが痛いはずが、痛さが弱いために、かゆく感じるのだと考えられます。（監修・保志 宏）

